

郡内織物、産地としての誇りが切り開く未来

● 甲斐絹から受け継がれてきた郡内織物の高い技術は、さらなる進化を続けています。

FABRIC



山梨県の東部、郡内地域*は千年以上の長きにわたり、織物に携わってきた歴史ある産地です。商売には不利な山奥の産地までどうすれば商人が買い付けに来てくれるかという地理的課題に対する答えが軽くて持ち運びが楽であり、価値の高い上質な高級生地を作るということでした。そこで生まれた「甲斐絹（かいき）」と呼ばれる優れた織物は、まるで日本画や浮世絵を思わせるような美しさがあり、粋を愛する人々の間に広く知られるようになっていきました。半透明のようなレイヤー感による奥行きや、たて糸とよこ糸の立体構造により、見る角度によって表面の表情が変化するのも魅力の一つです。甲斐絹は、薄さと丈夫さを両立させなければならない裏地として用いられたので、美しい色柄を配するには高い技術が求められ、職人の高い技能が育まれました。その産地は今、伝統を守りながらも革新を進め、世界が認める織物産地へと躍進しています。

*富士吉田市・西桂町・都留市・大月市・上野原市を含む一帯

郡内織物の特質

【先染め】

先に糸を染めてから織る手法で、色鮮やかで高級感ある柄を織ることができました。たて糸とよこ糸の色の違いで、ストライプやジャカードの柄を立体的に表現できます。

【高密度】

極細の絹糸を高密度に織ることで、薄くてもハリのある甲斐絹が生まれました。今でも細い糸をたくさん使うことで、キメの細かい高級感ある生地が作られています。

【細番手】

絹、キュプラ、ポリエステルをはじめとする細番手の長繊維の糸を得意としています。糸は細いほど取り扱いが難しくなりますが、織細で美しい生地が生まれます。

【多品種生産】

先染め、細番手、高密度といった難度の高い織物生産により培われた力は、ネクタイや婦人服地、傘地など多様なニーズに応えられるスペシャリストを生み出しました。

TOPICS #1

先染め織物の繊細で優美な輝き



高級感ある先染めの座布団

郡内織物には甲斐絹の時代から薄くて軽い生地の中に技術やデザインが惜しみなく注ぎ込まれています。その特質のひとつが「先染め」です。織物の染色には製品染め、生地染め、そして先染めがあり、先染めは糸を染めてから織ります。他の方法と違って、傷つきやすい糸の状態で染める事はとても難しく繊細な工程になります。しかし、たて糸とよこ糸を違う色にすることで深みのある色が出せたり、異なる素材の違う色の糸を使うことで複雑な表現ができます。また絵柄に立体感が出て、発色が美しいのも大きな特徴です。職人たちの力で築き上げた郡内織物が織りなす色彩美は世界からも注目されています。

TOPICS #2

郡内産地の胎動の原点
フジヤマテキスタイルプロジェクト



企業と学生のコラボレーションから生まれた「GOSHUINノート」

フジヤマテキスタイルプロジェクトは、郡内織物産地と東京造形大学テキスタイルデザイン専攻学生との産学共同開発企画として、2009年に発足しました。織物業界の現状を打開し、新たな可能性を模索する熱意ある若手職人と、学生の新鮮な感性の融合により、実際に商品化につながった作品も生まれるなど、コラボレーションにより産地は明らかな活性化が進んでいます。このプロジェクトの経験を経て、卒業後に移住して産地の企業に就職したり、産地のブランディングに関わる仕事を続けるようになった参加者もあり、フジヤマテキスタイルプロジェクトは郡内織物産地の新しい流れを確実に築きながら、さらなる高みを目指しています。

TOPICS #3

無限の美しさを織り込む
つくり手の思い



最先端技術を生かし「こもれび」を表現した晴雨兼用傘

山梨県では織物の研究も盛んに行われ、最先端の技術が産地の発展に活かされています。風景などの画像情報を解析し、自然なグラデーションと豊かな質感表現を兼ね備えた織物を創造する新しい研究成果からは、これまで織物では成し得なかった美しい織り上がりが実現します。このような先端技術を駆使し、新しい織物の魅力を開花させる一方、手作業に近い古いシャトル織機から生み出される風合いを大切に手間ひまをかけ織り上げる製品もあります。最先端の技術、そして伝統の技、どちらも大切にしながら、丹精込めて織り上げていく職人たち。ひとつひとつに誇りを込めて、郡内産地では織物の無限の美しさが日々追求されています。

TOPICS #4

革新的な技術と伝統が織りなす
優美な存在感



最新の特許技術による「やまなし縄文シルクスカーフ」

山梨県に伝わる造形や文様、色彩などのデザインソースをデジタル化して配信する「山梨県デザインアーカイブ」に登録された図案から、笛吹市で発掘された「大型深鉢（渦巻文）土器」のデザインを採用し、県産のシルクで織り上げた「やまなし縄文シルクスカーフ」が誕生しました。「縄文王国」と呼ばれる山梨の土器の模様が、県と山梨大学の共同開発による最新の特許技術によりデジタル化され、自然なグラデーションのあるジャカード織りで表現されています。美しい光沢の中に立体感のある土器の文様が浮かび上がるスカーフは肌触りも心地よく、使う人の気持ちに寄り添うものづくりを守り続ける郡内織物の逸品です。